

2級昇級の
ご報告



サッカー2級審判員
石川 帆菜
イシカワ ハンナ



この度、2級審判員に昇級させていただきました、石川帆菜と申します。

まず初めに、2級昇級にあたりご尽力いただきました兵庫県サッカー協会の皆様をはじめ女子部の皆様、インストラクターの皆様に心より感謝申し上げます。

私は小学生の時からサッカーをしており、現在も大学のサッカー部で選手として活動しています。小学生のころから副審を楽しいと感じており、中学2年生で参加した女子審判トレセンをきっかけに2019年に3級を取得しました。

審判として活動する上で練習や試合を欠席しチームに迷惑をかけることが多いなか、チームのメンバーやコーチ、監督が審判として活動することに理解を示し応援してくれたからこそ、今まで審判を続けることができました。選手と審判の両立がしんどいと感じることもありましたが、両立してきたからこそ、選手としても審判員としても、そして人としても大きく成長できたと感じています。

今後は2級審判員としての自覚と責任を持ち、どんなときも支えてくださる関係者の皆様への感謝を忘れず審判活動に取り組んでいきたいと考えております。

最後になりますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

2級昇級の
ご報告



サッカー2級審判員
杉本 直哉
スギモト ナオヤ



この度、二級審判員に昇級させて頂きました、杉本直哉と申します。

まず初めに、昇級させて頂くにあたり、ご指導頂いた兵庫県サッカー協会、神戸市サッカー協会、インストラクターの皆様、先輩審判員の皆様に心より御礼申し上げます。

そして、いつも快く送り出してくれる家族にも感謝の気持ちを伝えたいと思います。いつもありがとうございます。

私自身、サッカー競技に関わり40年以上が経ちます。選手・指導者といった立場を長く経験してきましたが、その間、審判に対してリスペクトを欠くような言動をしたことも少なくありませんでした。小学生の息子が所属する少年団のコーチをするようになり、自ずと審判に携わる機会が増え、審判をもっと深く学びたいと思ったのが二級審判員を目指したきっかけでした。

審判活動を始めてからは、サッカー競技の新しい楽しさ・難しさ・奥深さを知りました。また、先輩審判員の方々の競技規則の理解やレフェリングスキル、体力維持等に対する普段からの努力、試合に取り組む姿勢を目の当たりにし、自分自身の審判に対する認識の甘さに気づかされるとともに、サッカー競技における審判員の役割の重要性を知り、これまでの自分自身の言動を深く反省した次第です。

審判員としてはまだまだ未熟で、悔しい思いをしたり、迷いや戸惑いを感じることの方が多いですが、今の私にとって審判活動は多くの学びや出会いを得られる大切なサードプレイスとなっています。

二級審判員としては遅咲きではありますが、この年代であるからこそできるレフェリングを追求し、試合に関わるすべての人に信頼される審判員を目指して、一試合一試合に向き合っていく決意です。

学ぶ姿勢を忘れず、謙虚さと向上心をもって活動してまいります。
今後とも、ご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

2級昇級の
ご報告



サッカー2級審判員

田中 裕隆

タナカ ヒロタカ



この度、2級審判員に昇級いたしました、田中裕隆と申します。

まず初めに、日頃の試合よりご指導いただいた、インストラクターの皆様、兵庫県サッカー協会の皆様に、心より感謝申し上げます。

私が審判員を志したきっかけは、中学1年生の時、練習試合の副審で、自分が上げたオフサイドの旗が採用されたときに、楽しいと思ったのがきっかけです。

その後、中学3年で4級、高校1年で3級を取得し、練習試合の主審や、リーグ戦の副審、高校サッカーの兵庫県大会準決勝の副審などを担当するうえで、2級の先輩方と出会い、自分をこんな風になりたい思い、私も2級審判員を志すようになりました。

大学生になり、2級候補として県の割当や学連審判部の割当などを担当てきて、何度も壁にぶつかり、本当に2級になっていいのか、審判員として続けていいのかと自問自答する日々でしたが、インストラクターの皆様の叱咤激励、家族や審判の先輩方、同期など多くの方々の支えや応援の言葉に助けられ、ここまで来ることができました。心より感謝申し上げます。

審判活動の目標であった2級昇級は達成できましたが、ここがゴールではなく、スタートラインに立った気持ちで、今後は一試合一試合を全力で取り組み、シルバーワッペンに恥じぬよう、日々精進してまいります。

最後になりましたが、審判員・インストラクターの皆様、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

2級昇級の
ご報告



サッカー2級審判員

松岡江利子

マツオカ エリコ



この度、2級審判員に昇級させていただきました、松岡江利子と申します。

まず、昇級にあたり、兵庫県サッカー協会の皆様、インストラクターの皆様、試合を担当させていただいた選手やスタッフの皆様、そのほかご指導くださった皆様方に心より御礼申し上げます。

また、所属チームの仲間たちをはじめ、家族や友人たち、そして応援してくださったすべての方々に感謝申し上げます。

私がアクティブ審判員としての活動を始めたきっかけは、2023年度女子審判トレセンへの参加です。主審経験がほとんどなかつたためハードルが高いイメージがありました。しかし、審判委員会女子部の皆様から褒めていただき、少しは適性があるのかなと思いました。また、トレーニング後の振り返りは向上心にあふれていて、自分の性格にも合っていると感じました。

そんなわけで不安もあり悩みましたが、ご縁や運を大切に、審判活動に挑戦することを決心しました。いざ始めてみると、勉強不足や体力不足はもとより、失敗の連続でした。自分が恥ずかしいのは自業自得ですが、選手たちに申し訳なく、反省の日々でした。いまだに伸び代だらけです。それでも、知れば知るほど難しさを感じる一方で、高揚感も達成感もあり、やはり自分に向いているのだと思います。

これからも努力を惜しまず、コツコツ成長し続けたいと思います。そして、「楽しむ」ことを忘れずに、毎試合真摯に挑戦し続けたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。